耳の日に寄せて

琉球大学　耳鼻咽喉・頭頸部外科　比嘉　輝之

沖縄県医師会会員の皆様、県民の皆様、こんにちは。今年も耳の日がやってまいります。耳の日は難聴者や言語障害を持つ人々の悩みを少しでも解決したいという社会福祉の願いから1956年（昭和31年）に制定され、全国で様々な「耳の日」関連の行事が行われてきました。令和3年度からは3月1日～31日を耳鼻咽喉科月間として耳のみならず鼻、のどを含めて耳鼻咽喉科に関するさまざまな啓発活動を行っております。日本耳鼻咽喉・頭頸部外科学会でも特設サイトを設け興味をもって耳鼻咽喉科について知っていただけるようになっておりますのでぜひ一度ご覧ください。沖縄県地方部会では耳鼻咽喉科月間講演会として令和6年3月3日（日）、県立博物館・美術館にて市民公開講座を計画しており、好酸球性副鼻腔炎、クリニックにおける摂食嚥下診療、聞こえと健康について講演を行う予定です。また耳鼻咽喉科へかかるべきかどうか気になる症状のある来場者さんへむけて相談会を行うほか、補聴器の機器展示を行う予定です。皆様の周囲にご興味のある方がいらっしゃいましたらご案内いただけますと幸いです。今回は耳の日に寄せて、人工内耳について近年の動向、聞こえと認知症についてご紹介いたします。

人工内耳について

人工内耳は蝸牛の機能を肩代わりする装置です。蝸牛の働きは耳に届いた音の振動を神経の興奮に変えて脳へ伝えるものです。人工内耳では耳にかけたスピーチプロセッサが届いた音を分析し、エネルギーとともにインプラント部分へ伝えて電極から蝸牛神経節を刺激することで音の刺激を届けることができるようになります。日本では1985年に植え込み手術が始められ沖縄県では1988年からと全国でも早い時期に開始されました。2023年までに乳幼児から高齢の方まで230耳余りの手術が行われ、多くの方に初めて、あるいは再び音を聞く機会を得ていただくことができています。当初は成人の中途失聴者が対象となっていましたが、小児、一歳以上の幼児にも適応が拡大してきました。成人の適応は長らく変わりませんでしたが、2017年には、諸外国と同様に聴力レベルだけではなく最良語音明瞭度の基準でも適応を判断してゆけるようになってまいりました。手術適応には慎重な判断が必要ですが補聴器でも言葉が聞き取れなくなってきた方にも選択枝を提示できるようになりました。また両側の装用効果が認知されてくるとともに両側への装用も行われるようになってきました。禁忌とされていた内耳奇形や中耳感染についても慎重に対応することと適応範囲は広がっています。日本でも手術件数が増加し最近10年間では日本で毎年1,000人以上の方が人工内耳手術を受けています。

成人の人工内耳植え込み術後の聴取成績については語音表を用いて検査する方法があります。視覚的なヒントなしにランダムな単音節を人工内耳を用いて聞いて書きとってもらう検査で、術後十分調整と練習を行った方の正解率の平均は60-65%ほどですが個人差が大きいです。音を感じることできるかどうかでは術後ほぼすべての方が音感が得られ、8割近くの方は快適に感じる調整で小さな声程度の音量を聞くことができます。

聞こえと認知症、人工内耳について

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎えており 2025 年には高齢化率が 30% を超えると予想されています。それに伴い認知症の増加が社会問題となっており、認知症の危険因子として難聴が挙げられています。認知症の予防・介入・ケアに関するランセット国際委員会の 2017 年報告では修正可能な危険因子として難聴が 9% と最も影響が大きいと推定され、2020 年の改定でも 8% と依然としてトップにランクされたことから、加齢性難聴と認知症との関係が注目されています。メカニズムや因果関係について十分に解明されていませんが難聴は様々な要因を介して認知症のプロセスを助長することが示唆されています。WHO の認知症リスク低減に関するガイドラインでは難聴について補聴器装用はエビデンスが不十分とされているものの、近年のメタアナリシスでは補聴器もしくは人工内耳の使用は長期的には認知機能低下リスクを 19% 低減し、短期的には一般的認知テストスコアの 3% 改善と有意に関連したことが示されました。認知症に関してそれぞれのリスクに個別にではなく総合的に対処することが重要とされていますが、難聴に関しては対人関係や社会活動を続けることが認知症の防御因子となることはかねてより知られています。難聴が有る際にも補聴器、人工内耳などの聴覚補償のツールを活用して、脳への音声情報入力の質をできる限り保ち、対人交流をあきらめないことが重要です。

より良い聞こえのためにお近くの耳鼻咽喉科へご相談くださると幸いです。

参考

日本耳鼻咽喉・頭頸部外科学会ホームページ
Sugiura S et al：Auris Nasus Larynx 49（1）2022.
Uchida Y et al：J Am Med Dir Assoc 22（6）2021.

お知らせ

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課からのお知らせ

おきなわ医療通訳サポートセンターについて

沖縄県では、外国人観光客の医療問題に対応すべく、多言語コールセンター（名称：おきなわ医療通訳サポートセンター）を開設し、医療機関向け①電話・映像医療通訳②簡易翻訳サービス③インバウンド対応相談窓口をすべて無償で実施しております。

各医療機関におかれましては、是非、有効利用下さいますようご案内申し上げます。

無料
24時間365日対応

① 電話・映像医療通訳サービス（18ヵ国語対応）
0570-050-232

② 簡易翻訳サービス（20ヵ国語対応）
okinawa_mi@okinawa-kanko.com

9時～17時・平日

③ インバウンド対応相談窓口
info@okinawasoudan.com
0570-050-233

【問い合わせ先】
「おきなわ医療通訳サポートセンター」
医療通訳サービス運営事務局（受託事業者：メディフォン株式会社）
☎ 0570-001-003

←詳細はこちらからご覧ください
https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/kankoshinko/ukeire/iryoutuyakukorusentar.html